2023/7/25 産経新聞

人形寄贈「小児患者の心の支えに」

キワニスクラブ

病気やけがと闘う子供たちのために役立ててもらおうと、奉仕団体「神戸キワニスクラブ」（本部・神戸市中央区）のメンバーらが21日、小野市の北播磨総合医療センターを訪れ、「キワニスドール」と呼ばれる人形を寄贈した。小児患者の心のケアや、医療スタッフとのコミュニケーションなどに活用される。

キワニスドールは、木綿地でできた背丈約40センチの人形。クラブメンバーらが手作業で、裁断したり綿を詰めたりして作っており、絵や装飾など何も施されていない白い生地のまま寄贈先に手渡される。この真っ白の人形に、子供たちが大切な家族の顔を描いたり、好きなキャラクターに仕立てたりして、自分だけのお気に入りの人形に仕上げて完成となる。

キワニスドールを手渡す白崎大介・福祉広報委員長（左）＝小野市の北播磨総合医療センター

子供たちが人形に絵を描くことでリラックス効果が得られるほか、手術室に持ち込んだり病室で一緒に過ごしたりすることで、手術や入院生活に対する不安を和らげる。また、医師らが手術や治療の説明にこの人形を使うことで、小児患者との意思疎通がスムーズになる面もあるという。

この日は、同クラブの福祉広報委員長を務める白崎大介さんが人形5個を、北播磨総合医療センターの十都和弘理事に手渡した。同センターには年間約600人の小児患者が入院し、常時10～15人が院内で過ごしているといい、十都理事は「子供たちの心のケアに加え、わが子に長い間会えない親の患者にも使ってもらおうと思っている」と説明した。白崎さんは「少しでも多くの方々の役に立てばうれしい」と話していた。

同クラブは、平成15年ごろからキワニスドール寄贈の活動に取り組み、これまでに県内の医療機関や福祉施設などへ2千個以上を贈っている。